



# スマイルサポート



No. 5 令和4年12月6日発行

## 県北地区高等学校特別支援隊研修会を開催しました

11月1日（火）、秋田県立北鷹高等学校で、県北地区高等学校特別支援隊研修会を開催しました。研修内容や参加者の感想を紹介します。

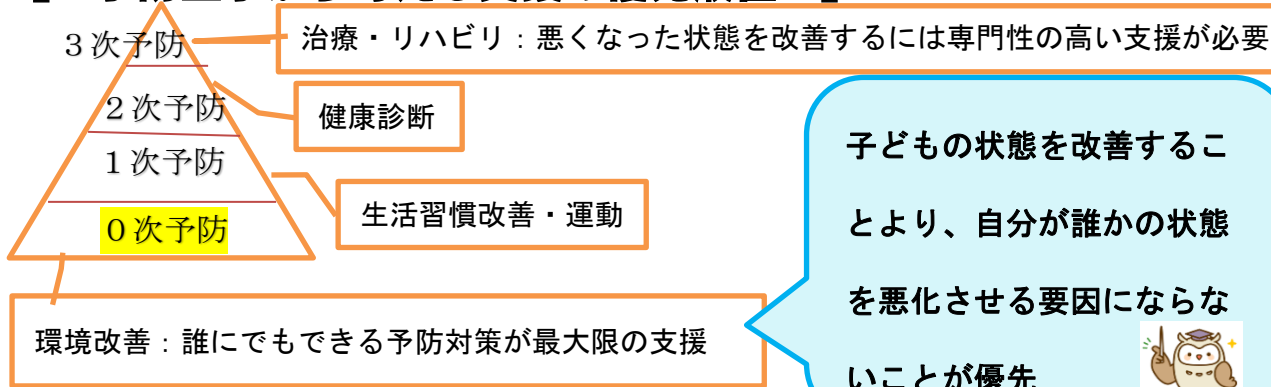
### 講演『教師だからこそできる支援と配慮を考える』

講師：秋田県発達障害者支援センターふきのとう秋田センター長  
臨床心理士・公認心理師 荒川 祐介 氏

参加された方々の感想にも多く書かれていましたが、自身のことを振り返りハッと気付かされる講演でした。



### 【 予防医学から考える支援の優先順位 】



子どもの状態を改善することより、自分が誰かの状態を悪化させる要因にならないことが優先



### 【 似ているようで違う教育的配慮と合理的配慮 】

教育的配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人・保護者との協議、同意がなくても計画を立てて実施できるので手軽</li> <li>配慮を受けていることを本人・保護者が自覚しづらいため、保護者が子どもを適切に理解しづらくなる。本人は自己理解が進みづらくなる。</li> </ul>
合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>本人・保護者との協議、同意が必要。関係機関との情報共有も求められるため手間がかかる。</li> <li>本人・保護者からの要望に対して配慮を検討するため、本人達に自己理解が求められる。合意形成まで話し合いを重ねる必要があり双方にコミュニケーションスキルが求められる。</li> </ul>

「私はこんな特徴がありこんな支援をして欲しい」「こうすれば働けます」「～～だと難しいです」





幼い頃から本人と話し合いながら合理的配慮の申請を行っていくことが自己理解や本人の配慮獲得スキルにつながっていく



## 【 公平な配慮とは 】



社会は「配慮を必要とする人と、配慮が必要でない人がいる」ではなく  
 「すでに配慮されている人々と、いまだ配慮されていない人がいる」  
 そもそも不公平過ぎる。少しでも公平に。やってやり過ぎることはない。

 目が見えない人に「頑張って見なさい」とは言わないのに  
 落ち着きのない人に「頑張って座っていなさい」と言うのはなぜか

## 【 学校でのマルチリトメント 】

**毒語（発達を阻害するネガティブ要素をもった言葉）**  
 「何回言われたら分かるの?」: 質問形式での問い詰め  
 「やる気がないなら、やらなくていいから」: 本来の意図の裏を読ませる  
 「早くしないと、〇〇させないから」: 脅して動かす  
 「校長先生に叱ってもらうから」: 虎の威を借る  
 「そんなこと1年生でもやりません」: 下学年との比較  
 「ダメって言ったよね」: 指導者に責任がないことの協調  
 「じゃあ、もういい」「さよなら」: 見捨てる

本当に指導として届いているか!?  
 子どもは大人をまねする。これらは大人が言われてきた言葉である。断ち切らなければならない!

### 実践発表 『高等学校における特別な支援を必要とする生徒への支援に関する実際』

北鷹高等学校 中嶋隆輝先生、大館桂桜高等学校 佐藤諒之介先生のお二人から、実践を発表していただきました。試行錯誤しながら実践していることや、成果、課題などを聞き「共感しながら勉強できた」「素晴らしい実践」「自分の授業でも生かしたい」という感想がたくさん聞かれました。

## HINAI スマイルサポート相談会～ミニミニ研修会のお知らせ～

大館市内の小・中学校で特別な支援が必要なお子さんに関わっている先生方を対象に、ミニミニ研修会を開催します。御来校をお待ちしております。

1 / 12 (木) 開催 テーマ「授業づくりのアイデア」

15:30～17:00  
 比内支援学校で行います。  
 申込みは、希望日の1週間前まで  
 電話かFAXでお願いします。

### 地域支援担当【問い合わせ先】

比内支援学校 教諭(兼)教育専門監 藤田久美子  
 特別支援教育コーディネーター 鎌田亜希子  
 TEL 0186-55-2131 FAX 0186-55-2132

